

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた ホストタウン事業に対する問題解決学習（PBL）の実践報告

北島信哉¹⁾

Practice report on problem-based learning (PBL) for the host town project for the XXXII Olympiad and Tokyo 2020 Paralympic Games

Shinya KITAJIMA¹⁾

1. はじめに

本学では、文部科学省より、2014（平成26）年度「大学教育再生加速プログラム」（アクティブ・ラーニング）に選定されており、学生が主体となって地域の身近な問題を見つけ、その解決に向けて調査・分析から解決策の提示までを行う、問題解決型学習（PBL: Problem Based

Learning）としての「地域ゼミ」を2年次に開設している。地域ゼミに必要な「PBLリテラシー」の育成は、1年次の「教養ゼミ」で行い、2年次で「地域ゼミ」の実施、さらに3、4年次では、専門知識を活用した本格的PBL「専門ゼミⅠ・Ⅱ」を行い、“地域課題をテーマとするアクティブラーニング”を4年間の継続した学びとして体系化している¹⁾。

「地域課題の発見と解決」をテーマとする アクティブ・ラーニング		
1年次	2年次	3・4年次
教養ゼミ	地域ゼミ	専門ゼミⅠ・Ⅱ
アクティブ・ラーニング(AL)への導入(PBLリテラシー)	地域課題をテーマとするALの体験	専門知識を活用した本格的PBL
EQ教育	セルフコントロール・コミュニケーション力・チームビルディング・リーダーシップの育成	

出所：徳山大学 HP より抜粋

図1 地域課題の発見と課題をテーマとするアクティブ・ラーニング

2. 授業概要

(1) 地域ゼミ

地域ゼミは、地域に貢献できる人材の育成をめざして、連携先の行政、企業、団体の方と共に地域問題の解決に取り組む活動である。この授業は、2年次の必修科目となっており、学部学科を問わず1年次に各学生が自らの関心に応じて所属するゼミを申請するものである。今回、事例とした地域ゼミは、2年生8名が選択し、2019年度前期のゼミ活動を実施した。

今回の地域ゼミは、山口県防府市の「防府市セルビアホストタウン推進室」と連携し、2020

1) 徳山大学経済学部

Faculty of Economics, Tokuyama University

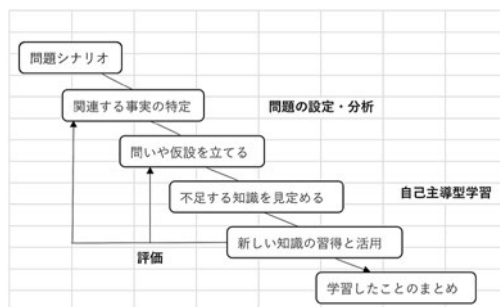
年東京五輪・パラリンピックに向け、交流国の選手支援や関係者との交流を行うホストタウン事業に関する課題解決に取り組んでいる。この活動では、既に日本で行われたバレーボールの国際大会時において、防府市で事前キャンプが行われている。また2020年東京オリンピックにおけるセルビア女子バレーボールチームの事前合宿受入も行われる予定である。このような中、今回の地域ゼミは、防府市民の方に対するホストタウン事業の更なる理解促進に向けた活動を展開した。

(2) ホストタウン

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図ることを目的としている²⁾。このホストタウンに登録している自治体数は、全国で378件（2019年12月27日現在）である²⁾。

(3) 問題解決学習

問題解決学習（PBL: Problem Based Learning）とは、実世界で直面する問題やシナリオの解決を通じて、基礎と実世界とを繋ぐ知識の習得、問題解決に関する能力や態度等をみにつける学習のことである。問題解決学習はまず、実世界に関する問題やシナリオが与えられ、学生は関連する事実を特定して、問いや仮説を立てる。次いで、知っている知識、知らない知識を分別・整理し、どのような知識が不足しているかを見定める（問題の設定・分析）。調べ学習を通して新しい知識を習得する（自己主導型学習）。学習したことをもって、はじめての問題・シナリオに戻って活用し、問題が解決されればそれでよし。解決されなければ、もう一度上記のステップを繰り返す。問題が解決した最後には、学習したことをまとめる³⁾。このような問題解決学習のステップとサイクルは、図2の通りで



資料：溝上慎一・成田秀夫「アクティブラーニングとしてのPBLと探求的な学習」(2016)、図1-2 (P9) を基に作成

図2 問題解決学習のステップとサイクル

ある⁴⁾。

(4) 活動概要

本ゼミは受講生8名で4月10日に活動を開始している。これまで防府市は、東京五輪・パラリンピックに向けたホストタウン事業に登録し、セルビア女子バレーボールチームの事前合宿受け入れ等の事業を実施している。2019年度より、地域ゼミの活動として「防府市セルビアホストタウン推進室」と連携し、同市が抱えるこの事業の課題への取り組みを実施した。ゼミ活動では、現地視察、防府市内で行われたセルビア女子バレーボールチームが出場するバレーボールパブリックビューイングにおいて来場者アンケートを実施。そして、アンケート結果から、現在の課題を分析した。このような現地調査、視察を通じ、ホストタウン事業に対する市民の理解度向上、事業の活性化の課題解決に向けた事業案の作成を行った。作成した事業計画書は、「防府市セルビアホストタウン推進室」に提案し、提案内容に関する議論を行った。提案内容の中で、ホストタウン事業に対する10代の来場者を増やす取組みを2020年の東京五輪・パラリンピックに向けた取組（ワールドカップバレー・パブリックビューイング、セルビア対日本）の中で実施した。

(5) 活動スケジュール

地域ゼミの活動は、防府市ホストタウン推進室と連携し、防府市での現地活動、調査を含め以下内容で実施した。

①. オリエンテーション, (4/8)

地域ゼミの目的や防府市セルビアホストタウン推進室との連携内容の説明、今後の活動計画、各メンバーの自己紹介を実施した。

②. 現地調査: 防府市ホストタウン事業の説明, 課題の把握, 施設見学 (防府市役所, 市役所内ホストタウン事業展示ブース, セルビア物産品売り場のうめてらす) (4/24)

防府市役所に訪れ、これまで防府市ホストタウン推進室が取組まれた事業や、今後の取組み、現在の課題を担当者の方より説明を受けた (図3)。また防府市セルビアホストタウン推進室がこの事業を市民の方に広く周知するための市役所内の展示 (図4) や、観光地におけるセルビア国の物産品の展示ブースを見学し取組みの詳細を現場に行き、理解する機会となった (図5)。

このように4月に実施した防府市での現地視察の取組は、図2の問題解決学習のステップとサイクルにおける「関連する事実の特定」に該当すると推察される。

③. 現地調査: セルビア女子バレーボールチーム事前合宿施設見学 (5/15)

セルビア女子バレーボールチームがこれまで日本国内で行われた国際大会事前キャンプ地として使用した体育館を訪問し、実際に使用した施設や選手の様子について説明を受けた (図6)。

④. 現地研修: 課題に対する防府市ホストタウン推進室への第一次プレゼンテーションの実施 (防府市役所) (5/15)

4月の現地視察でホストタウン事業の担当者のお話から事業の概要、現在、取組んでいる事業の詳細や課題を把握した。そして、この事実から学生が課題解決に向けた

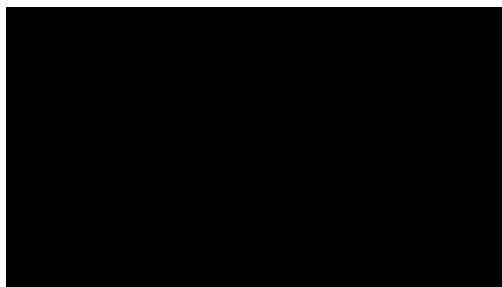


図3 ホストタウン事業の説明

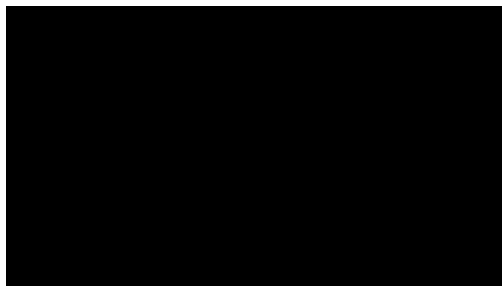


図4 活動写真 (市役所内展示ブース)

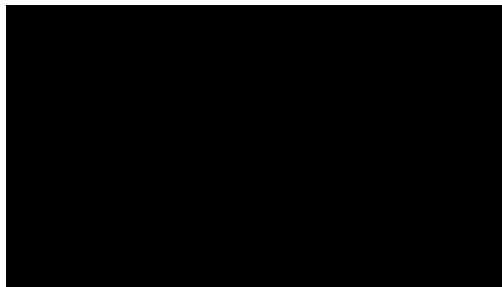


図5 セルビア物産品売り場

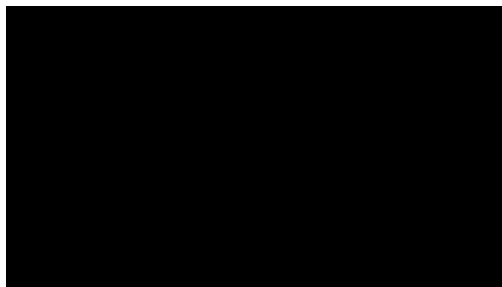


図6 セルビア女子バレーボールチーム事前合宿施設見学

仮説を立て、その内容のプレゼンテーションを実施している。このプレゼンテーション内容について、担当者の方から多様な指摘を受けている。この取組については、問題解決学習のステップとサイクルにおける図2の「問いや仮説を立てる」、「不足する知識を見定める」に該当すると推察される。

⑤. ホストタウン事業に対する市民の方への意識調査に向けた取組

ホストタウン担当者の方からのお話を伺い、具体的に市民の方のホストタウンへの意識を把握しようと考え、2019年6月に防府市内で行われるセルビア女子バレーボールチームが出場する試合のパブリックビューイングでアンケート調査の実施に向け調査票の作成に取組んだ。調査票の作成は、受講生が、ホストタウンへの意識を把握する上でどのような質問項目を設定することが必要かという事を考え、授業内でグループワークを実施し、調査項目の内容について議論を行った。このことは、図2の「新しい知識の習得と活用」に該当すると推察される。

⑥. 現地調査：女子バレーボールネーションズリーグパブリックビューイング参加、来場者アンケート調査の実施（6/12）

日本で開催された女子バレーボールネーションズリーグにおけるパブリックビューイングを防府市内の会場で実施され、このイベントの会場設営、試合中の応援を行う取組みに参加した（図7）。この日本対セルビア戦のパブリックビューイングにおいて、ホストタウン事業に対する市民の方の意識を把握する目的として、会場内で来場者に対するアンケート調査を実施した。

アンケート調査項目としては以下の通りである。

- ・ホストタウンの認知度
- ・ホストタウン関連事業への参加経験有

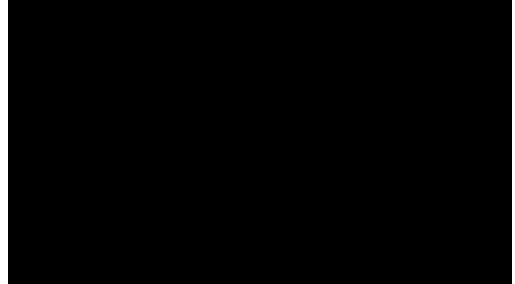


図7 パブリックビューイング写真

無、参加事業

- ・パブリックビューイングイベントを知った方法
- ・ソーシャルネットワーク利用状況
- ・情報取得方法
- ・パブリックビューイング来場理由、満足度
- ・東京オリンピックへの関心
- ・市内の訪問場所
- ・今後希望するホストタウン事業
- ・回答者属性

⑦. パブリックビューイング来場者アンケート結果の考察

2019年6月12日に実施したパブリックビューイング来場者に実施したアンケートから、来場者の特性やホストタウンに対する意識、イベントの満足度等の結果を授業内で分析した。結果から、イベント参加者の属性は、「会社員、公務員」が最多回答である。またイベント参加理由の最多回答は、「セルビアに関心があったから」、イベントを知った理由の最多回答が「仕事関係者から」、という点が明らかになった。これらの結果を基に防府市ホストタウン事業の活性化に向けた提案について、グループワークを通して実施した。

⑧. 西京銀行、ミズノ株式会社とのPBL課題解決型学習インターンシップへの参加

2019年6月1日、8日、15日に実施された、西京銀行、ミズノ株式会社との

PBL 課題解決型学習インターンシップへの参加を行った。このインターンシップでは、地域が抱える課題に学生が取り組むことで地域課題の解決を目指すと同時に学生が「地域に貢献できる人」へと成長できるように教育機関だけでなく行政、企業、金融機関等が協力して取り組む事業として実施された。

今回は、山口県下松市がベトナムのバトミントンチームの事前合宿受入に伴うホストタウン事業の「おもてなし」を考えるテーマで、地域ゼミ学生を含む本学の学生がインターンシップに参加した。地域ゼミの対象自治体とは異なる市が受け入れを行うホストタウン事業を理解し、ホストタウンの受入国に対する提案を議論、調査を行った。またインターンシップの最終日の報告会には、山口県内のホストタウンに取り組む自治体担当者の方をお招きし、プレゼンテーション内容について講評いただき、参加学生がホストタウンに対する取組を考えるうえで貴重な機会となった⁵⁾。この取組は図2の「新しい知識の習得と活用」に該当すると推察され、ここで得た知見を防府市セルビアホストタウン事業の活性化案を考える段階で生かすことが期待された。

⑨. 現地研修：防府市セルビアホストタウン推進室への最終プレゼンテーション（7/17）

2019年6月に防府市内で実施されたバレーボール国際大会のパブリックビューイングにおける来場者アンケートを実施した。6月のパブリックビューイングの現場を経験し感じた課題、そしてアンケート結果を分析し、回答結果を基に市民の理解度向上に向け、2回目の課題解決案を防府市ホストタウン推進室の担当者の方に提案した。特にホストタウン活性化に向け、アンケート結果から明らかになった課題として、10代から大学生の関心を高めるとい



図8 最終プレゼンテーション

う点に着目した提案を行い、担当者の方より講評を受けた。また当日の来場者増加を目的として、市内でのイベントPR方法、誘導スタッフの配置、横断幕の設置位置、新たな看板の設置、SNSの活用案について、イベント広報の視点からの提案を行った（図8）。

⑩. 地域ゼミ合同発表会への参加（8/9）

本学では、地域に貢献できる人材育成を目的に地域ゼミ合同発表会を平成26年度から実施してきた。令和元年前期は、8月9日に9つのテーマの地域ゼミの学生、教員、連携先の関係者の方が参加され各自のテーマに関する発表は行われた。2019年度前期の地域ゼミ活動の成果を発表する合同発表会に向け、これまでの活動を振り返りながら、ゼミでの活動内容や成果、連携先との合同事業により明らかになった課題やその課題解決に向けた提案内容を学生間のグループワークでの議論を行いながら作成した。発表会当日は、発表内容について、フロアの方との意見交換がなされた⁶⁾。

⑪. ワールドカップバレーパブリックビューイングへの参加、提案案の具現化、アンケート調査の実施（9/27）

ホストタウン事業活性化に向け、10代から大学生までの参加者の増加を目指し、2019年9月に実施するワールドカップバレーの日本対セルビア戦のパブリックビューイング時において、今回ゼミで提案

した多様な世代のイベントへ参加を目指すという課題解決案としての飲料の提供、会場で設置する看板の作成を実施した。来場者アンケートの結果から、「大学生との共同事業が良かった。」との感想が見られた。しかしながら、「可能なら子どもの参加がもう少しあればよかった。」との感想があるように、地域ゼミでは、10代から大学生までの参加の増加に対する提案を行い、実施したが、効果という面においては、課題が残った。今後のホストタウン事業の活性化については、多くの市民の方の関心に繋がる事業案の検討、実施が必要であり、この点を今後の課題としたい。

3. ゼミ履修者の感想

地域ゼミ履修者に対して、授業終了時に活動に対する感想を課題としてレポートを出したのである。以下はその内容に対する記述の一部である。

(1) 地域ゼミを通じての学び

- ・地域ゼミ活動を通じて、1. 考える力、2. 発表する力、3. チームワーク、4. 理想ではなく現実を踏まえて考える力が重要だと思いました。
- ・地域ゼミ活動を通じてグループワーク活動で、自分の意見を言うこと、コミュニケーション能力の大切さを学びました。
- ・限られた期限内で提案などをするのは大変だったり、その提案が現実的に可能なものにすることは大変であった。
- ・何か案を出す時には、自分たちがやりたいことだけでなく、予算やどんな効果を得ることができるかなど具体的に、実現可能かを考えなければいけないことを学んだ。
- ・グループワークでここは自分が担当しようと、自らがやり遂げることで、思考力、自主性を身に付けることができました。

(2) 今後の課題

- ・自分から積極的に動き他人と協力すること、物事を考えるときは、具体的に考えること、世間の出来事に興味を持つことである。
- ・普段からニュースを見るなど世間のことに関心を持つことが必要であると感じた。
- ・グループワークの中で、全員が主体性を持ち取り組むことが重要であると感じました。
- ・グループワークの中で、コミュニケーションしたつもりですが、やはり直接会って会話をすることの方が相手に伝わりやすく、話し合いもすぐ終わることが出来たであろうと感じました。
- ・地域ゼミを通じて、人と協力することの大切さ、多くの人に発信することの難しさ、世界で起きていることに目を向けることの大切さを学んだ。

4. まとめ

防府市ホストタウン推進室の担当者の方からの講義や防府市内のホストタウン事業に関する施設見学を実施し、課題発見に努めました。施設見学では、市役所や観光名所に設置されているホストタウン事業のPRブース、事前合宿を実施する体育館の訪問を実施した。ホストタウン事業の担当者、セルビアバレーボールチームの事前合宿を受け入れ施設担当者の方にこれまでの取組や課題をお聞きし、事業の現状や課題を把握することに努めた。これらの活動から1回目の課題解決案の提案を実施した。またホストタウン事業の課題とする市民への理解に対し、現状把握を行うため、2019年6月に防府市内で実施されたバレーボール国際大会のパブリックビューイングにおける来場者アンケートを実施した。そしてアンケート結果を分析し、回答結果を基に市民の理解度向上に向け、2回目の課題解決案を防府市ホストタウン推進室の担当者に提案した。

6月のパブリックビューイング時における現地調査から、ホストタウン事業活性化に向けた

課題を明らかにし、その改善策について地域ゼミ内で議論を行った。その結果、特に10代から大学生までの参加者を対象として、この世代のイベント参加やホストタウンに対する関心の増加を目指し、2019年9月に実施するパブリックビューイング時にゼミで提案した飲料の提供、会場で設置する看板の作成の具現化を行った。今回の活動では、当初の予定であるセルビア女子バレーボールチームの来日が実施されなかったが、現地で2回実施されたバレーボールのパブリックビューイングに参加することでホストタウン事業の実情把握が可能となった。しかしながら、アンケート回答数がイベント参加者に比べて少ないため、回収率を上げる工夫が今後の課題としてあげられる。地域ゼミ活動では、地域での課題発見、解決策の提案、実施を行い、地域での課題解決学習を推進した。活動を進めていく中で、2020年大会に向けた新たな課題も明らかになり、この点を防府市ホストタウン推進室の方と共有することが可能となった。今回の地域ゼミ活動は、図2の通り、問題解決学習のステップとサイクルを基に展開してきた。しかしながら、このステップにおける知識を活用して、問題を解決したかをはじめに戻って評価する。解決できなければ、もう一度このステップをやり直す³⁾。というサイクルの展開に

関して、本授業の取組みは、改善の余地があるため、この点を今後の課題としたい。

参考文献

- 1) 徳山大学 HP. (地域ゼミプロジェクト. <http://www.tokuyamau.ac.jp/applicants/community/> 2020年1月10日閲覧)
- 2) 内閣府, ホストタウンの推進について, https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/ (2020年1月14日現在)
- 3) 溝上慎一, 成田秀夫, アクティブラーニングとしてのPBLと探求的な学習, 東信堂, pp8, 2016
- 4) 溝上慎一, 成田秀夫, アクティブラーニングとしてのPBLと探求的な学習, 東信堂, pp9, 2016
- 5) インターンシップ・西京銀行×ミズノ×徳山大学 報告会開催 http://www.tokuyama-u.ac.jp/news/coc/4th_saikyo_internship_repor.html (2020年1月12日閲覧)
- 6) 徳山大学令和元年度前期「地域ゼミ」の合同発表会 http://www.yamaguchi-u.ac.jp/coc-plus/_5139/_7740/_7974.html (2020年1月13日閲覧)